

人・地球・水環境

月刊下水道

JOURNAL OF SEWERAGE, MONTHLY

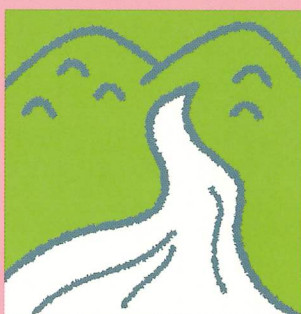
September, 2025

9

VOL.48 No.11

特集 震災下でも利用可能な下水道へ

- 熊本地震の教訓を生かした下水道BCP訓練
- 非開削工法による管路耐震化
- 災害時のトイレパニック回避のための備え



■都市を下る水を追って
コウホネと下水道



<http://www.gesuidou.jp/>



■人・ひと・ヒト

国土交通省 上下水道審議官 石井 宏幸 氏
強靱で質の高いインフラ次世代に守り継ぐ

公開講演会

入場無料・要申込

世界における下水道の役割と水環境

講師 吉村 和就 氏

グローバルウォーター・ジャパン 代表

国連は近いうちに地球人口の半数（約40億人）が水ストレスに直面すると警鐘を鳴らしている。下水道は公衆衛生、疾病予防、水質保全について極めて根源的な役割を果たしてきた。さらに下水道が世界の水問題（水不足、水質汚濁防止）解決の重要なファクターとして先進国のみならず世界各国が注目している。世界各国・地域ごとの下水道普及率比較や下水道が水環境にもたらす効果等について解説したい。

秋田大学卒業後、1972年荏原インフィルコ(株)入社、1984年(株)荏原製作所本社経営企画部長、1988年国連ニューヨーク本部経済社会局環境審議官、2001年同時多発テロ後帰国、(株)荏原製作所に復職、2005年グローバルウォーター・ジャパン設立、現在に至る。日本を代表する水環境問題の専門家であり、国連本部勤務の経験をふまえ、日本の環境技術を世界に広める活動を継続。NHK、TBS、フジテレビ等、多くのマスメディアに専門家として出演。



主な著書

1. 「世界と日本の水事情」 水道産業新聞社
2. 「グローバルウォーターナビ」 水道産業新聞社
3. 「水ビジネス 110兆円水市場の攻防」 角川書店
4. 「日本人が知らない巨大市場・水ビジネスに挑む」 技術評論社
5. 「水ビジネスの新潮流」 「続・水ビジネスの新潮流」 環境新聞社

日時・会場

2025年10月23日（木）

14:00 - 16:00（開場13:30）

つのはず
角筈区民ホール

東京都新宿区西新宿 4-33-7

聴講申込

申込：「10月23日講演会希望」と記載、会社名・所属・氏名・連絡先電話番号を明記の上、メール又はFAXにてお申し込み下さい。10月20日まで受け付けますが、定員（150名）に達した場合は、その時点で締め切らせていただきます。

メール：murohashi@setsubikyo.or.jp（変更されました。）

FAX：03-3346-3055

TEL：03-3346-3051

交通

◇新宿駅よりバス◇

新宿WEバス：新宿駅西口28番バスのりば発 西参道方面行「パークハイアット東京前」下車

京王バス：新宿駅西口21番バスのりば（京王デパート前）発 中野行 又は 中野車庫行「十二社池の上」下車

◇鉄道◇

京王線：「初台」東口より徒歩10分

都営大江戸線：「都庁前」A5出口より徒歩10分

*駐車場はございません。お車のご来館はご遠慮ください。

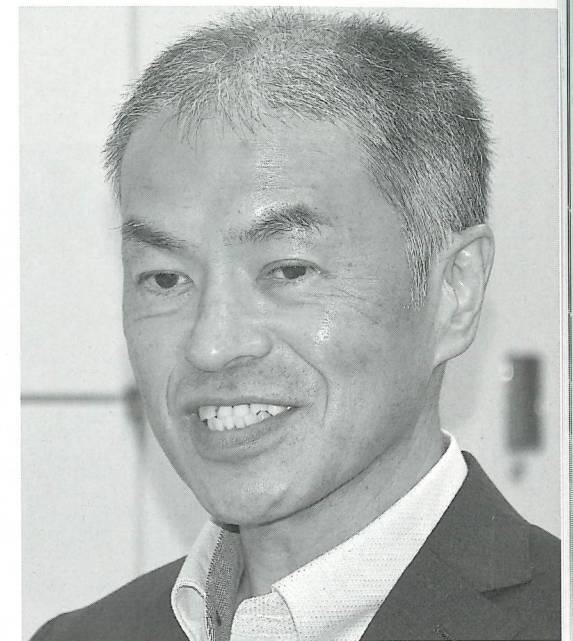


人・ひと・ヒト

石井 宏幸（いしい・ひろゆき）氏

国土交通省 上下水道審議官

上下水道を強靱で質の高いインフラとして次世代に守り継ぐのが使命



国土交通省の上下水道審議官に7月1日付で石井宏幸氏が就任した。就任のインタビューで石井氏は、上下水道を強靱で質の高いインフラとして次世代に守り継いでいくことが使命だとし、そのためにマネジメントと経営基盤の再構築に重点的に取り組む考えを強調した。

※このインタビューは、7月9日に本誌をはじめ上下水道・建設専門紙誌合同で行った。（月刊下水道編集部）

管路マネジメントは安全性確保を最優先

——就任に当たっての抱負をお聞かせください。

上下水道は最重要な基礎インフラであり、これを強靱で質の高いインフラとして次の世代に守り継いでいくことが使命だと考えている。そのために、上下水道インフラマネジメントの再構築と上下水道の経営基盤の再構築の二つの再構築に重点的に取り組んでいきたい。

——上下水道審議官グループも1日付で幹部の異動があり、脱炭素化・資源利用推進室が設置されるなど、組織体制も新しくなりました。組織運営のポイントをお聞かせください。

上下水道審議官グループはできてまだ1年3ヵ月の新しい組織だが、松原誠前上下水道審議官が作った方向性は踏襲しながら組織運営を行っていく。そのうえで、特に三つのポイントを挙げたい。

1点目は、職員が明るく前向きに仕事ができる雰囲気作りを心がけたい。2点目は、我々には道路や河川と異なり直轄の現場がない。それゆえに現場から我々の仕事が遊離しないよう、常に現場を意識して、我々の仕事が現場に伝わり、使われるかを意識して仕事をしたい。3点目は、上下水道一体の組織として、水道の良いところを下水道が見習い、下水道の良いところを水道が取り入れるなど、互いの良い点を知り高め合う組織運営を目指したい。

——埼玉県八潮市での道路陥没事故を踏まえた今後の対応方針についてはいかがですか。

家田仁・政策研究大学院大学特別教授を委員長とする「下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会」から「国民とともに守る基礎インフラ上下水道のあり方～安全性確保を最優先する管路マネジメントの実現に向けて～」と題した第2次提言をいただいた。このタイトルにあるように「安全性確保を最優先する管路



一般社団法人 東京下水道設備協会